

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091601478		
法人名	医療法人白寿会		
事業所名	グループホームやすもと		
所在地	福岡県久留米市三潞町玉満2390-1 (電話) 0942-54-6080		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 22 日	評価結果確定日	令和 6 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

建物は木造平屋で広い間取りとなっており、換気と採光に優れ、入居者がゆったりと生活できる空間となっています。また、母体である安本病院が近くにあり、24時間体制で入居者の健康管理を行っています。スタッフは、介護職だけでなく、看護職やリハビリ専門職など多職種からなり、それぞれの立場から入居者の生活を支えています。毎月誕生会や季節を感じる行事を計画し、飾り付けなども行い皆さんに楽しんで頂いています。毎月新聞や写真でご家族に様子をお伝えし、喜んでいただいています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 12 月 8 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、田園風景がみられる住宅地にある、木造の1階建ての建物である。建物の真ん中にリビングがあり、両脇にそれぞれのユニットの居室がある。天井が高く、ユニット間の仕切りがないため、リビングが広々として明るく、2つのユニット間の交流がしやすい。外のウッドデッキは日当たりがよく、ひなたぼっこができる。母体の病院が近くにあり、医療との連携やリハビリが充実している。職員の得意なことを活かして、レクリエーションや行事を行い、利用者は楽しんでいる。利用者ができることを行い、それぞれの役割ができており、家庭的な環境の中で、日常生活ができている事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、開設時に作成。事務所内に掲示している。毎日朝礼で唱和し、スタッフで共有し意識付けを行っている。	事業所独自の理念があり、事務所内に母体の病院の理念と共に掲示している。朝礼で理念を唱和し、日々実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症により積極的な交流が出来ていないが、近所の方や学校帰りの子供達などに挨拶や声掛け等をしている。近所の方からお花をいただいたり、回覧板が回ってきたりして、少しずつ交流している。	事業所の前の道が小学校の通学路になっており、子ども達を通る時に挨拶をして交流している。大雨の時は、玄関が小学生の雨宿りの場所となっている。地域より行事の案内があったり、敬老の日のお祝いを頂いたりしている。職員が地域行事の手伝い等で、地域と関わりをもっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けてはまだ十分活かせていないが、入居者家族や関わっている方達には伝えている。地域の会議などに参加し、現在の地域の高齢者の問題などについて話合ったり、介護予防フェスタへのスタッフの参加などで活かしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年度からは、2か月に1度、対面での会議を開催し、事業所の取り組み等について話し合いを行っている。そこで頂いた意見などをスタッフで共有し、サービス向上につなげている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。事業所の場所は、3つの地区が重なっており、3ヶ所の自治会長が参加している。会議では、利用者の生活状況や事業所の取り組みについて報告している。出席者からは、勉強会の内容や面会等について質問がある。地域行事に参加してはとの意見を検討する等、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では対面で状況を報告したりご意見を頂いたりしている。また、不明な点がある場合など、随時連絡をとっている。市からの情報提供はメールや書面、電話などであり、協力関係を築くようにしている。	行政には、電話やメールで連絡・相談・報告をしている。地域の介護予防フェスタの地域づくり会議に参加し、イベントの手伝いをする等、行政との協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心掛けており、定期的に研修を行い、意識付けをしている。施錠についても、極力行わないよう、センサーを利用したり、不穩時の対応を強化するなど意見を出し合いながら工夫し対応している。	玄関は施錠していない。職員は、外出傾向がある利用者には、付き添いや見守り、所在確認をしている。身体拘束に関する研修は年2回実施している。法人の身体拘束適正委員会にも参加している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と一緒に虐待についても学ぶ機会を持っており、スタッフ同士で対応の仕方など話し合い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料をファイルにしており、入居時にケアマネより制度の簡単な説明をする様にしている。また、ご家族から質問があった際など必要時に家族へ説明できるようにしている。	家族には、契約時や必要時に成年後見制度について説明している。日常生活自立支援事業や成年後見制度について、全職員を対象に、内部研修を年1回実施している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書・契約書を用いて説明を行い、理解・納得していただくようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんを日々観察したり会話をしながら意見を聞き、要望などを取り入れている。また、ご家族とは面会に来られた際やお電話などでご意見を聞き、運営に反映させるなどの対応を行っている。	職員は利用者の要望や思いを常に確認している。ハンバーガーを食べたいと希望があり、利用者が食べたいものを選んで職員が購入しに行く等、利用者の要望を取り入れるようにしている。家族には、面会時や電話で状況報告をして、要望を聞いている。外出希望があり、人混みを避けて外出する等、家族の要望を反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や会議の中でスタッフの意見や提案を聞き、検討した上で、取り入れ実践している。	日々の業務や朝礼で、職員の意見や提案を聞いている。年1回管理者と個人面談をしている。利用者の衣類や環境面の調整、利用者とは個別で関わる時間を作るために、掃除や洗濯等の業務内容を見直す等、職員の意見を反映するようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際は、休みや勤務時間の希望についてできるだけ配慮し、疲労やストレス軽減に努めている。ベースアップ加算や処遇改善加算の算定にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用は母体の病院で行っている。性別や年齢などは問わず、採用選考を行っている。また、資格取得や研修受講の希望があれば、勤務を配慮している。職員は得意分野を担当で振り分け、能力を発揮できるようにしている。	採用選考では、性別や年齢等の理由で採用対象から外さないようにしている。希望があれば、母体法人の病院への異動は可能である。定年はあるが、希望あれば就労は可能である。希望休や研修参加のための休みを配慮しながら、勤務表を作成している。働きやすく、職員が得意なことを活かしやすい職場づくりをしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人研修や内部研修で人権や虐待防止などについて学んでいる。	高齢者の人権に関する内部研修を年1回、実施している。研修資料は保管している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講機会を確保している。外部研修は機会が少ないため、動画での研修で学んだり、日々、介護技術を教え合ったりしながらトレーニングしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議などに参加し、同業者と交流する機会をもっている。また、近隣のグループホームなどとは電話で相談したりしてサービスの質向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入にあたり、生活歴や住環境などの情報を収集したり、本人のお話を伺いながら要望などをお聞きし、安心して過ごしていただけるような関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入にあたり、ご家族の不安や困りごとなどの情報を収集し、疑問が残らないよう丁寧にお話ししながら関係作りを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にあたり、お話を聞きながらその時に必要としている支援を検討し、提案するなどして対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常での会話や活動を通してコミュニケーションを図りながら、相手の気持ちを汲み取るように心がけ支援している。一緒に掃除や洗濯などできることをしながら、関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人希望時や体調変化など必要時に電話するなどして状況をお伝えしている。また、面会時に家族とお話して様子をお伝えしたり、希望をお聞きしたりしながら、関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やなじみの方と電話で話をされたり、お店に電話してきていただいたりしている。また、外出や面会の制限はあるが、ご家族や友人・知人など、短時間ではあるが面会を実施し、お話ししたり顔を見せたり出来ている。	近所の人が会いに来られて玄関で話をしたり、手紙を書いて一緒にポストに出しに行ったり、電話の取り次ぎをしたりする等、馴染みの人との関係が継続できるようにしている。入居前からの馴染みの店に配達してもらったり、買い物に行く等、馴染みの場所とのつながりが途切れないように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し席を配置したり、スタッフが間に入りながら入居者同士が関われるように支援している。また、その時々で入居者同士と一緒に作業することによりお互いに話をしやすいような状況を作るなどしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は利用終了した方はいないが、以前はサービス終了した方もケアマネジャーと連絡を取り経過をフォローし、再入居の受け入れを行ったことがあった。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々コミュニケーションをとりながら、一人一人の思いや希望、意向を把握している。	日頃から様々な場面で意見や意向を聞き取っている。意思疎通が困難な利用者については、いろんな生活場面での表情から読み取っている。それでも難しい場合は、家族や入所前からの介護関係者から聞き取って、思いの把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から生活歴などを聞き出して把握したり、ご家族や入居前利用していたケアマネや事業所から情報を収集しこれまでの経過を把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングを担当者で行い、現状把握に努めている。また、毎日の様子観察を行い、申し送りや業務日誌などにより現状把握や情報共有を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に担当者により評価を行い、本人を交えた担当者介護を開催し多職種で意見交換をしながら介護計画を作成している。ご家族の会議への参加はコロナ禍で難しいため、事前にご意向を確認している。	担当制にしており、担当が毎月モニタリングしている。ケアマネジャーは朝礼時に全職員から出た意見や往診時に聞き取りした医療情報、利用者や家族から聞き取りした意見や意向をまとめ、担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容などパソコンの個別記録に記入し、合わせて業務日誌や申し送りで情報共有を図っている。担当者は記録も参考にして毎月モニタリングを行ったり、カンファレンス時に評価を行ったりして、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況などその時々ニーズに合わせて必要な支援を検討し、できるかぎり対応するようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じて飲料の宅配を頼んだり、近所のお店から配達してもらったりしている。また、馴染みの店の方に電話して来た頂いたりしている、。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・家族に確認し、主治医を決めて頂いている。月2回の訪問診療や必要時の受診など適切な医療が受けられるよう支援している。受診を希望される際には、ご家族に協力して頂いたりスタッフが支援したりしている。受診結果はご家族に連絡を行い情報を共有している。	希望する医療機関による受診を支援しているが、現在の利用者は事業所の協力医をかかりつけ医としているため、協力医の往診により利用者の健康管理ができています。家族等と受診時の情報の伝達方法について話し合っています。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常における心身状態について、職場内や病院の看護職員に報告したり相談したりして、いつでも支援できる体制をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院になった場合、情報提供書と共に口頭でも入居者の状況をつたえ、必要な治療が行えるようにしている。また、入院中も定期的に訪問し、随時情報交換している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を事業所で作成している。入居前に本人・ご家族に重度化した場合の対応について事前確認を行っている。入居後も本人やご家族と話をしながら意向を確認している。	入所時に、事業所の方針を説明し、重度化した際にどのような対応を希望するかを互いに確認して同意を得ている。入所後も利用者の状況の変化に応じて話し合いの機会を持ち、その後の対応について確認し合っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応は事務所内に掲示し、定期的に説明しすぐに対応できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成している。年2回の防災訓練を計画し実施している。地域の方との協力体制はまだ十分でないが、運営推進会議で避難訓練の実施を知らせたり報告をしたりして少しずつ協力体制を築きたいと考えている。	火災・風水害・地震に応じた対応マニュアルを作成している。避難訓練は年2回、夜間想定を含めて実施している。ハザードマップ上、水害のリスクは低いが、土のうを準備している。運営推進会議で避難訓練について案内している。災害時の備蓄品は事業所内に用途別に保管している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ近くで声をかけたり、1人1人の人格を尊重し、丁寧に対応するよう心掛けているが、発言を振り返り、反省することもある。	プライバシーの保護については、毎年の院内研修で採り上げている。排泄を失敗した際は、周囲の利用者に気づかれないように声をかけ、支援している。同性介助の希望があれば応じている。排泄や食事に関わるチェック表は外来者の目が届かないところに保管している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手に合わせたコミュニケーションを取り、どのようにしたいかたずねたりしながら本人の思いや希望を聞くようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余裕がなくスタッフの都合になることもあるが、できるだけ一人一人のペースに合わせて支援できるようにしている。起床や就寝、食事などの時間や休憩などはその人に合わせて柔軟な対応をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後など化粧水でお手入れをしたり、洋服を一緒に選んだりして支援している。朝の洗顔時に髪をとき鏡の前で身だしなみを整える支援をしている。また、毎月1回訪問美容でカットやパーマ、カラーなどできるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事ごとの時には、食べたい物などをたずねて提供している。食事の盛り付けなどの準備や、食器・お盆拭きなどの片付けも一緒にしている。	食事は3食外注している。普通食で届けられるものを各利用者に合わせて形態を調整し、盛り付けている。コロックや餃子等、利用者の好みに応じた食事も提供している。農村地域であり、季節の収穫物の差し入れが届いた際は1品増やしている。ユニット間の仕切りが無いため、利用者は気の合う者同士で食事をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を行い、体重の増減に気を付けながら栄養管理を行っている。定期的に水分摂取できるようにしている。その人にあった形態や量をみんなで話し合い、提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つようになっている。自分で行えない方には、職員が手伝っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援している。排泄チェック表を用いて排泄の状態やパターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。	トイレはセンサー式の照明で、扉は引き戸で車いす利用者の出入りがしやすい。トイレで排泄する生活が少しでも長く続けられるよう支援しており、入所時におむつを使用していた利用者が紙パンツに改善する等、職員は排泄の自立に向けて積極的に取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や運動を促したり、腹部マッサージをしたりしている。水分摂取をこまめに行い、乳酸菌飲料や果物などを摂取し、便秘予防に取り組んでいる。また、主治医に相談し、下剤の服用等でコントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人の意思を確認しながら週2～3回入浴して頂いている。一般浴と機械浴があり、その方の状態に応じて清潔を保てるよう支援している。曜日や時間帯は決めているが、無理強いはせず声掛けなど工夫しながら気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。	月曜日から土曜日までを入浴日とし、週2～3回入浴を行っているが、必要に応じて日曜日にも入浴できるよう配慮している。一番風呂を好む利用者や、午後からの入浴を好む利用者があり、その都度対応している。入浴時間はお迎えから帰室まで、利用者と楽しく話し、互いの関係が深まる大切な機会としている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣やその時々状況に応じて休息の時間を設けている。部屋の照明や温度・湿度、寝具など調整しながら気持ちよく眠れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導により薬剤師に薬の指導を受けながら服薬支援を行っている。服薬変更時には、症状など変化がないか観察し、何かあった場合は、主治医や薬剤師に報告する様にしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や編み物などの作業が好きな方には、作業を提供したり、身体を動かすことが好きな方とは一緒に体操や散歩をしたりして気分転換できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染状況などにより、なかなか外出できない状況ではあるが、外を散歩したり周囲をドライブしたりしながら外に出る機会を作っている。また、ご家族と自宅へ外出して頂けるよう支援している。	天候に応じて、週に3日ほど敷地内を散歩している。ドライブは近くの公園や筑後川の河川敷、季節の花の見物に月に1度ほど出かけている。3ヶ月に1回程度、近くのスーパーに買い物に出かけている。外食については家族に協力をお願いしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方はお小遣いを所持し、お菓子や飲み物などを購入できるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話したいという希望があれば電話をしてお話して頂いている。また、手紙をお渡ししたり書かれた手紙をポストに投函したりしてやり取りの支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓の開閉や空調などにより温度・湿度を管理し、会期に過ごせるようにしている。また、カーテンや照明で明るさを調節している。ホールは季節を漢字られるような飾りを入居者さんとスタッフと一緒に作成し、飾ることで季節感を感じられるように工夫している。	リビングはフローリングで、ユニット間の仕切りもなく天井も高く、ゆったりと落ち着いた印象を受ける。リビングはウッドデッキに面しており、陽光がたっぷり入る場所で利用者はくつろぐことができる。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、大まかな席を決めて過ごしているが、窓際やテレビの前など気の合う人と好きな席で話をしたり作業をしたりと思いきいに過ごせるようにしている。また、廊下にも椅子を置くなどして、外を眺めたりゆっくりできる場所を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の必要な物や好みの物をもちこまれ、居心地よく生活できるようにしている。	居室ドアは引き戸で車いす利用者も出入りしやすい。天井の照明は光量が調節できるので、利用者に合わせた明るさで過ごすことができる。足元灯が取り付けられているので、夜間の移動も安全に行うことができる。家具や仏壇、冷蔵庫、家族写真等、利用者の馴染みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、広い空間のため、車椅子の方でも自走したりして動きやすくなっている。居室入口に名前を掲示したり、目印をつけたりして自室が分かるようにしている。また、電気屋エアコンなどボタンも必要な方には表示したりして使いやすいようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
			○	②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、開設時に作成。事務所内に掲示している。毎日朝礼で唱和し、スタッフで共有し意識付けを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症により積極的な交流が出来ていないが、近所の方や学校帰りの子供達などに挨拶や声掛け等をしている。近所の方からお花をいただいたり、回覧板が回ってきたりして、少しずつ交流している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けてはまだ十分活かせていないが、入居者家族や関わっている方達には伝えている。地域の会議などに参加し、現在の地域の高齢者の問題などについて話合ったり、介護予防フェスタへのスタッフの参加などで活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年度からは、2か月に1度、対面での会議を開催し、事業所の取り組み等について話し合いを行っている。そこで頂いた意見などをスタッフで共有し、サービス向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では対面で状況を報告したりご意見を頂いたりしている。また、不明な点がある場合など、随時連絡をとっている。市からの情報提供はメールや書面、電話などであり、協力関係を築くようになっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心掛けており、定期的に研修を行い、意識付けをしている。施錠についても、極力行わないよう、センサーを利用したり、不穩時の対応を強化するなど意見を出し合いながら工夫し対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と一緒に虐待についても学ぶ機会を持っており、スタッフ同士で対応の仕方など話し合い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料をファイルにしており、入居時にケアマネより制度の簡単な説明をする様にしている。また、ご家族から質問があった際など必要時に家族へ説明できるようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書・契約書を用いて説明を行い、理解・納得していただくようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんを日々観察したり会話をしながら意見を聞き、要望などを取り入れている。また、ご家族とは面会に来られた際やお電話などでご意見を聞き、運営に反映させるなどの対応を行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や会議の中でスタッフの意見や提案を聞き、検討した上で、取り入れ実践している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際は、休みや勤務時間の希望についてできるだけ配慮し、疲労やストレス軽減に努めている。ペースアップ加算や処遇改善加算の算定にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用は母体の病院で行っている。性別や年齢などは問わず、採用選考を行っている。また、資格取得や研修受講の希望があれば、勤務を配慮している。職員は得意分野を担当で振り分け、能力を発揮できるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人研修や内部研修で人権や虐待防止などについて学んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講機会を確保している。外部研修は機会が少ないため、動画での研修で学んだり、日々、介護技術を教え合ったりしながらトレーニングしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議などに参加し、同業者と交流する機会をもっている。また、近隣のグループホームなどとは電話で相談したりしてサービスの質向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入にあたり、生活歴や住環境などの情報を収集したり、本人のお話を伺いながら要望などをお聞きし、安心して過ごしていただけるような関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入にあたり、ご家族の不安や困りごとなどの情報を収集し、疑問が残らないよう丁寧にお話しながら関係作りを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にあたり、お話を聞きながらその時に必要としている支援を検討し、提案するなどして対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常での会話や活動を通してコミュニケーションを図りながら、相手の気持ちを汲み取るように心がけ支援している。一緒に掃除や洗濯などできることをしながら、関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人希望時や体調変化など必要時に電話するなどして状況をお伝えしている。また、面会時に家族とお話して様子をお伝えしたり、希望をお聞きしたりしながら、関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やなじみの方と電話で話をされたり、お店に電話してきていただいたりしている。また、外出や面会の制限はあるが、ご家族や友人・知人など、短時間ではあるが面会を実施し、お話ししたり顔を見せたり出来ている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し席を配置したり、スタッフが間に入りながら入居者同士が関われるように支援している。また、その時々で入居者同士と一緒に作業することによりお互いに話をしやすいような状況を作るなどしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は利用終了した方はいないが、以前はサービス終了した方もケアマネジャーと連絡を取り経過をフォローし、再入居の受け入れを行ったことがあった。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々コミュニケーションをとりながら、一人一人の思いや希望、意向を把握している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から生活歴などを聞き出して把握したり、ご家族や入居前利用していたケアマネや事業所から情報を収集しこれまでの経過を把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングを担当者で行い、現状把握に努めている。また、毎日の様子観察を行い、申し送りや業務日誌などにより現状把握や情報共有を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に担当者により評価を行い、本人を交えた担当者介護を開催し多職種で意見交換をしながら介護計画を作成している。ご家族の会議への参加はコロナ禍で難しいため、事前にご意向を確認している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容などパソコンの個別記録に記入し、合わせて業務日誌や申し送りで情報共有を図っている。担当者は記録も参考にして毎月モニタリングを行ったり、カンファレンス時に評価を行ったりして、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況などその時々ニーズに合わせて必要な支援を検討し、できるかぎり対応するようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じて飲料の宅配を頼んだり、近所のお店から配達してもらったりしている。また、馴染みの店の方に電話して来た頂いたりしている、。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・家族に確認し、主治医を決めて頂いている。月2回の訪問診療や必要時の受診など適切な医療が受けられるよう支援している。受診を希望される際には、ご家族に協力して頂いたりスタッフが支援したりしている。受診結果はご家族に連絡を行って情報を共有している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常における心身状態について、職場内や病院の看護職員に報告したり相談したりして、いつでも支援できる体制をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院になった場合、情報提供書と共に口頭でも入居者の状況をつたえ、必要な治療が行えるようにしている。また、入院中も定期的に訪問し、随時情報交換している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を事業所で作成している。入居前に本人・ご家族に重度化した場合の対応について事前確認を行っている。入居後も本人やご家族と話をしながら意向を確認している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応は事務所内に掲示し、定期的に説明しすぐに対応できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成している。年2回の防災訓練を計画し実施している。地域の方との協力体制はまだ十分でないが、運営推進会議で避難訓練の実施を知らせたり報告をしたりして少しずつ協力体制を築きたいと考えている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ近くで声をかけたり、1人1人の人格を尊重し、丁寧に対応するよう心掛けているが、発言を振り返り、反省することもある。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手に合わせたコミュニケーションを取り、どのようにしたいかたずねたりしながら本人の思いや希望を聞くようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余裕がなくスタッフの都合になることもあるが、できるだけ一人一人のペースに合わせて支援できるようにしている。起床や就寝、食事などの時間や休憩などはその人に合わせて柔軟な対応をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後など化粧水でお手入れをしたり、洋服を一緒に選んだりして支援している。朝の洗顔時に髪をとき鏡の前で身だしなみを整える支援をしている。また、毎月1回訪問美容でカットやパーマ、カラーなどできるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事ごとの時には、食べたい物などをたずねて提供している。食事の盛り付けなどの準備や、食器・お盆拭きなどの片付けも一緒にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を行い、体重の増減に気を付けながら栄養管理を行っている。定期的に水分摂取できるようにしている。その人にあった形態や量をみんなで話あい、提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つようになっている。自分で行えない方には、職員が手伝っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援している。排泄チェック表を用いて排泄の状態やパターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や運動を促したり、腹部マッサージをしたりしている。水分摂取をこまめに行い、乳酸菌飲料や果物などを摂取し、便秘予防に取り組んでいる。また、主治医に相談し、下剤の服用等でコントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人の意思を確認しながら週2～3回入浴して頂いている。一般浴と機械浴があり、その方の状態に応じて清潔を保てるように支援している。曜日や時間帯は決めているが、無理強いはせず声掛けなど工夫しながら気持ちよくつろいで入浴して頂けるよう支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣やその時々状況に応じて休息の時間を設けている。部屋の照明や温度・湿度、寝具など調整しながら気持ちよく眠れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導により薬剤師に薬の指導を受けながら服薬支援を行っている。服薬変更時には、症状など変化がないか観察し、何かあった場合は、主治医や薬剤師に報告する様にしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や編み物などの作業が好きな方には、作業を提供したり、身体を動かすことが好きな方とは一緒に体操や散歩をしたりして気分転換できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染状況などにより、なかなか外出できない状況ではあるが、外を散歩したり周囲をドライブしたりしながら外に出る機会を作っている。また、ご家族と自宅へ外出して頂けるよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方はお小遣いを所持し、お菓子や飲み物などを購入できるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話したいという希望があれば電話をしてお話して頂いている。また、手紙をお渡ししたり書かれた手紙をポストに投函したりしてやり取りの支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓の開閉や空調などにより温度・湿度を管理し、会期に過ごせるようにしている。また、カーテンや照明で明るさを調節している。ホールは季節を漢字られるような飾りを入居者さんとスタッフと一緒に作成し、飾ることで季節感を感じられるように工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、大まかな席を決めて過ごしているが、窓際やテレビの前など気の合う人と好きな席で話をしたり作業をしたりと思いきいに過ごせるようにしている。また、廊下にも椅子を置くなどして、外を眺めたりゆっくりできる場所を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の必要な物や好みの物をもちこまれ、居心地よく生活できるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、広い空間のため、車椅子の方でも自走したりして動きやすくなっている。居室入口に名前を掲示したり、目印をつけたりして自室が分かるようにしている。また、電気屋エアコンなどボタンも必要な方には表示したりして使いやすいようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある		
			○	② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		